

山梨県食の安全・安心審議会（第2回） 議事録

○日 時：令和7年9月30日（火） 午後1時30分～3時00分

○場 所：山梨県防災新館409会議室

○出席者（敬称略）

（委 員）：足達委員、飯島委員、猪俣委員、小野委員、小俣委員、加藤委員、菊島委員、
長谷川委員、平井委員、藤井委員、宮下委員、分部委員、渡辺委員

（事務局）：総合県民支援局 中村次長

県民生活支援課 切刀課長、久保島総括課長補佐、三森主査、鈴木主事、小田切職員

（関係課）：健康増進課 萩原副主幹

保健体育課 桐原課長補佐

○傍聴者等の数：1名

○会議次第

1 開会

2 総合県民支援局次長あいさつ

3 議事

（1）「第5次やまなし食育推進計画」の策定について

・計画の構成（案）

資料1－1

・計画の概要（案）

資料1－2

・計画の目標指標（案）

資料1－3

（2）その他

4 その他

5 閉会

○議事概要

（1）「第5次やまなし食育推進計画」の策定について

○事務局から、「第5次やまなし食育推進計画」の策定に向けた、計画の構成（案）、概要（案）および目標指標（案）について説明。（資料1－1、1－2、1－3）

○質疑は次のとおり。

【委員】

目標指標 No.4 について、

大学生や企業の従業員等を対象とした食育啓発講座とは座学か。

参加方法としては、Zoom で参加できるようにした方が参加しやすいのではないかと。特に社会人は忙しく、仕事の合間に移動して聞きに行くというのは厳しいと思う。

【事務局】

座学ではあるが、一方的に聞いているというよりは実際に作業や発表をしてもらう参加型で実施している。Zoom 等のオンライン受講については良いアイデアだと思うので参考にさせていただきたい。

【委員】

目標指標の設定について、

計画なので設定しなければならないと思うが、目標指標の設定よりもどのように進めていくか

が重要であり、目標を達成するために何をするのかが見えてこない。

目標指標 No. 1、No. 2 について、

朝食を食べた方が良いということをどうやって子どもたちに納得させるか。自ら食べたいと思うためには、親からきちんと朝食を食べるよう促され、必要性を理解してもらう必要がある。

また、昔は子どもたちが農作物を育ててそれを収穫して食べるという食育活動もあったと思うが、今はどうなっているのか。

目標指標 No. 7、No. 8 に関連して、

郷土料理は、山梨独自の気候風土により育まれた食材を活用して形成されており、郷土料理となった歴史や地理的背景があると思う。そういうことも含めて広く周知する必要がある。また、現代向きにアレンジしたレシピ等も活用しながら推進していったら面白いと思う。

【事務局】

目標指標に対して何をどのように取り組んでいくのかは計画本体で記載していく予定である。ご指摘を踏まえ、きちんと考えながら作成していきたい。

また、郷土料理のアレンジ料理については過去にレシピコンテストを行っており、冊子も作成している。イベント等で配布すると興味関心をもってくれる方がいらっしゃるので、今後も積極的に機会を捉えながら発信していきたいと思う。

【保健体育課】

子どもたちの農業体験については、県下全体については把握できていないが、小学校等の授業では、校内で栽培して食べる取組や、近隣の農家さんのところへ出向き、収穫等の体験をしている。地域によってそれぞれ特色があり、そういった取組は今も大切に実施していると認識している。

【事務局】

今年度、食の安全・安心優良活動表彰で受賞された山梨学院幼稚園では、作物を作る体験を種まきから収穫、食べるところまで一貫して行ったり、地元の伝統野菜「長禅寺菜」については、種の販売状況や栄養成分等にも幅広く興味をもって調べ、子どもたちの学びの教材となっていた。また、活動が単年度の取組ではなく、活動主体であった年長児の卒園後も農園に招待し収穫体験をしたり、取組を次の園児たちに引き継ぎ活動をしていた。

幼少期に体験したことは大人になっても必ず記憶に残っていくと思う。

【委員】

目標指標 No. 7 について、

回数として数える取組には、実施規模や主催者等の決まりがあるのか。

食生活改善推進員の活動において、毎年、郷土料理に関する取組を実施しているが、これも 1 回となるのか。

【事務局】

規模や参加人数によらず、取組を実施していただいたら 1 回としたいと考えている。

【委員】

県下の食生活改善推進員の活動を拾い上げると、目標数値にすでに到達してしまうのではないかと、また、活動を積極的に実施していることが伝わるのではないかと考えた。

【委員】

この件に関連して、数値の対象に何が入っていて、何が入っていないのかがわからないので、データの出典元を明らかにしてほしい。重要なことだと思うので、ご検討いただきたい。

【委員】

目標指標 No. 8 について、

指標の捉え方が難しいと思う。食育に関しては、農業体験や食育体験をしたことを評価すべきだが、この目標指標だと農泊をしなければ実績として数値化されない。また、農泊の実態は県外者やインバウンドの方々が非常に多い。食育の目標とするならば、もう少し幅広に捉えることも必要であると感じた。

子供の農業体験について、

学校の授業の中では対応しきれないといった事情もあるかと思う。JA グループでは、何種類かの野菜の苗を学校に提供する取組を行っている。どんな形であっても体験をすることが重要であり、自分の好きな野菜苗を鉢に植えて夏休み中に育てたり、バケツで稲を育てるなど、自分で作ったという経験が記憶に残るのであれば、十分な食育活動になると思う。

「大人の食育」について、

国の考えとして、重要な部分は2つあると考えている。1つは、大人の食生活が整えば、家庭内の食生活が整い、家庭の食育につながるということ。もう1つは、大人が農業への理解を深めることで、地域の食育につながる。「食料・農業・農村基本計画」においても、国民の果たすべき役割として、食料や農業に対する理解の醸成という部分が盛り込まれている。これは大変価値のあることで、全部が食育につながってくると思う。

このように、あらゆる機会が食育と捉えられれば、目標指標に関する数値の収集方法は難しい部分もあるかと思うが、調査方法の工夫を検討していただければと思う。

【委員】

同じく目標指標 No. 8 について、

目標指標の No. 7 は、基本方針2「地域の農林水産物や食文化への理解と継承」に合致する内容だが、No. 8 は「発信」に関する内容であり、県民に対する理解と継承とは異なると思う。

目標指標 No. 7 について、

食文化の伝承回数に、学校給食における郷土料理の提供回数が含まれているのかわからない。それぞれの数値は何のデータが元になっているかを明らかにしておく必要がある。本文中でもよいので、数値の出典元を記載してほしい。

【委員】

農業体験や郷土料理等について、

農業体験等を企画すると、親子で参加される方が多く、特に長期休暇中は参加者が多くなる。

学校からの依頼による豆腐作り体験教室の実施や、学童保育所への食育カルタの提供等も行っており、大変喜ばれた。

郷土料理については、県外出身の若いお母さんはなじむ機会が少ないと思うので、夏休み等に親子で参加できる郷土料理教室があると良いと思う。

若者の朝食欠食については、山梨大学の生協で 100 円朝食の提供を実施しており、とても喜ばれている。このような取組に対する補助があるとよいと思う。

【委員】

目標指標 No. 4 について、

食育啓発講座は、大学生向けは学校単位でやるかと思うが、企業向けはどのような形での開催を想定しているかを教えていただきたい。企業単位になるのか、一般向けに広く参加していただく形なのか。

【事務局】

担当案ではあるが、まずは企業単位の実施に向けて、ご協力いただける企業がないかお声がけしていければと考えていた。また、先ほどオンライン開催のご提案もいただいたので、企業単位だ

けに限らず幅広く県民向けにできればと思っている。両方を検討していきたい。

【委員】

郷土料理、農業体験等について、

郷土料理が具体的に何を指すのかを、明確に認識できていない。地元に住んでいても知らない郷土料理もあり、家庭料理なのか郷土料理なのかわからない部分もある。

先日、山梨学院大学の学生とレシピコンテストをしたところ、吉田のうどんのすりだねをカレーパンの中に入れたものを考えてくれた。学生が熱心に考えてくれたアイデアに感心した。

農業体験については、どうやって実になるのか、毎日水をあげないと枯れてしまうこと等、当たり前だと思うことを体験して学ぶことが食育につながると思う。子供達に野菜苗を配布する取組等を関係機関が連携して拡大していけるとよいと感じた。

子供達が栽培過程の観察や調理体験等を通じて学んだ内容を発表するコンテストみたいなものをやると楽しいと思う。色々なアイデアが出てくれば面白いし、子どもも大人も楽しめるような機会になると思う。

【委員】

郷土料理が何を指すのかについては、県庁のホームページに一覧表が載っている。

【委員】

農業体験について、

小学2年生の生活科の授業において、野菜を1人1鉢で植えて育てている。また、他の学年でも、JA 職員のご協力のもと、学校の敷地内で一緒に野菜を栽培している。一般の方に知られていないだけだと思うが、学校が授業として農業体験に取り組んでいるところが多いことは確かである。

【委員】

農業体験について、

道の駅に出品している生産者は約200名おり、農業のプロの方もいるので、体験機会の提供の場として道の駅を活用してもらえれば良いと思う。

【委員】

目標指標に関連する数値について、

数値の収集方法や出典元が明確になるとよいと思う。明確になれば、目標指標をすでに達成にできているものもあるのではないかなと思う。

【委員】

目標指標 No. 10 について、

SNS には様々な情報が溢れており、信憑性を含め、内容の正確性を慎重に精査する必要がある。

基本方針2（3）地域資源の魅力発信の取組では、消費者が生産者の話を直接聞く機会を多く設けて、その中で正しい情報を取り込んで発信することが重要だと思う。

【委員】

目標指標全般について、

第4次計画からの継続となる目標指標4項目については、達成が難しそうなものが残っているものの、農業体験や食に興味を持たせる活動を実施していくことで朝食を食べない生徒が減ったり、食塩摂取量を減らすことにつながっていくのではないかなと思う。

体験活動は興味を持たせないと始まらないため、子供達に「食」に対する興味関心を持たせることが重要である。普段食べる魚の名前は知っていても、その魚が切り身になる前の状態を知らない子供が多い。大人が興味をもっていないと、子どもも興味を持たなくなってしまうと思う。農業体験を始めとする「食」に関する体験の取組を、より一層推進してもらいたい。

【委員】

当然、魚には骨があり、切り身で泳いでいる訳ではないが、子供の頃から骨を取り除かれた魚や切り身を日常的に食べていけば、それが当たり前になってしまう。そうすると、切り身になる前の状態を知らなかったり、魚の骨を取り除き食べることが面倒で肉ばかり食べてしまうことにもなると思う。そういう意味でも、子供への食育体験は非常に大切だと思う。

朝食摂取や減塩についても、子供の頃からの習慣による部分もあるため、農業に限らず、調理体験等も含め、様々な食育体験ができる機会の充実が必要であると思う。

(2) その他

【委員】

目標指標 No. 6 の表現について、

「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事」は「バランスの良い食事」などの言い方に変えた方が分かりやすいのではないか。

【事務局】

目指していることを端的に言えばバランスの良い食事をとっている人の増加なので、「バランスの良い食事」の指す意味が、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事」であることが分かる表現を検討したいと思う。

【健康増進課】

「バランスのとれた」という言葉の説明が目標指標の内容になると思っている。表現の仕方は、目標指標に関連する数値の出典元の検討とあわせて行いたい。

国の健康増進計画では、「バランスのとれた食事」の指標として「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上」という表現を使用している。

【委員】

将来に向けては、従来と少し視点を変えて、デザイナーフーズプログラム（がん予防に役立つ食品を特定し、加工食品等に活用する）のような考え方を取り入れてもいいのではないか。

【委員】

第4次計画の策定に係る審議会にて、主食・主菜・副菜の揃った食事に関する目標指標を加えることを提案した。このことは栄養バランスを整える重要なポイントになり、それに加えて果物と牛乳・乳製品をとり、バランスの良い食事を整えることが望ましい。ただ、経済的な問題もあるのでうまくいかない場合もあるかと思うが、本来は経済的にも見合った内容でそれらを揃えられるようにしていくことが必要なことだと思っている。